

## 目次

① 人と自然と環境問題 .....	1
1.1 僕が自然の研究をはじめたわけ	1
1.2 共有地の悲劇：環境問題はなぜ起こる？	6
1.3 食生活と共有地の悲劇	8
1.4 環境問題と NIMBY	9
1.5 共有地の悲劇を解決するには？	11
1.6 「良かれと思って」の功罪	13
1.7 環境問題は単純ではない	16
1.8 この本について	18
② 環境倫理と歴史 .....	21
2.1 アメリカの環境意識	22
2.2 近現代の環境意識	24
2.3 環境問題は実は倫理の問題	26
2.4 自然の「人権」	30
③ 答えはひとつに決まらない .....	33
3.1 何年前がいいの？	34
3.2 原生林は「手つかずの自然」であるべきか？	35
3.3 人はどこまで自然に介入すべきか：ノータッチ？ それとも人為で人為を打ち消す？	36
3.4 保全と利用のはざま	39
3.5 文化か自然保護か	41
3.6 生物多様性はどこまで？ どのように？ 守るべきか	43

3.7	何事も「トレードオフ」. バランス感覚が大事.	49
④	外来種のおはなし .....	55
4.1	奥が深い外来種問題	56
4.2	外来種は「お互いさま」	60
⑤	前向きに何とかしよう .....	66
5.1	環境問題について「伝える」	68
5.2	生態学は環境問題を解決できるか？	71
5.3	生物学的環境修復 (bioremediation)	75
5.4	未来をおもう, 人間はとても美しい	76
⑥	科学者とは・科学とは .....	78
6.1	ハーバード大学での歓喜と苦闘	78
6.2	研究者の就職事情	83
6.3	科学のお作法	90
6.4	科学ってなに? : 客観性とは	91
6.5	科学ってなに? : 反証可能性とは	93
⑦	全力で走らねば .....	98
7.1	人工知能を使ってみる	100
7.2	シミュレーションの信頼性を向上させる	108
	文 献 .....	113
	あとがき .....	114
	生態学から環境問題を考える (コーディネーター 巖佐 庸) .....	116
	索 引 .....	123

**Box**

- |                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| 1. もし人が自発的に人口を減らす世界になったら .....       | 29 |
| 2. Optimal city size. 多面的に考えよう. .... | 52 |
| 3. 外来種いけばな .....                     | 62 |